

平和のきずなで結ばれ  
つよに努めなさい。  
エフェソ4章3節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会  
中 田 輝 次  
〒852-8113 長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
TEL 095 843 3869 FAX 095 843 3417  
郵便振替番号 018 80-5-2699  
カトリック長崎大司教区ホームページ  
http://www.nagasaki.catholic.jp  
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社  
〒850-0852 長崎市万屋町5-13  
TEL 095 821 2146 FAX 095 821 2148



9月・教皇さまの  
意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：キリスト者の一致
- ②宣教の意向：すべての宣教者のキリストとの一致
- ③日本教会の意向：移住者の人権を守る

平和の元后マリアと  
共に祈り歩く

8月9日、長崎は62年目の原爆の日を迎え、平和祈願祭・たいまつ行列を行った。今年は被爆マリア像が行列に加えられた。佐世保では8月15日平和祈願祭が開かれた。平和がむしろおびやかされている中、脅威と向き合うキリスト者の唯一の道具「祈り」をたずさえ、平和を願った。

平和祈願祭・たいまつ行列 ー長崎

浦上教会での出発式を終えた参加者は、午後7時15分、たいまつを手に行列に参加した。被爆マリア像(台座は被爆者でもある浦上教会の西村勇夫氏製作)が人々を導くかのようにして、祈り歩く信者たちが如己堂を通って平和公園に向かう。二写真。長い祈りの列と、すでに会場で祈りながら待つ人々とながら、つになり、平和祈願祭ミサが始まった。



高見大司教は説教の中で(写真左)被爆マリア像が語りかけているメッセージに参加者に次

のように解き明かした。

「被爆マリア像は戦争の悲惨さ、戦争を起こす人の愚かさを物語っています。同時に、私たちに起こした戦争の愚かさを悔いるように促しています。人類にとつて脅威のものになるものを排除しなければならぬことも教えます。さらにマリアは、かつてイエスの十字架の苦しみとそばで共になさったように、私たちと原爆の苦しみを共にされ、共有されました。被爆のマリア像は、愛し合い平和を築く新しい生き方を示しています。」

与え合い、ゆるし合う生き方、欲望に死んで愛に生きる復活した生き方に本當の平和があることを呼び掛けた。説教のあと会衆みなで「被爆マリアと共に平和を求める祈り」を唱え、マリアの取り次ぎを願った。



カトリック長崎大司教区

《被爆マリアと共に平和を求める祈り(後半部分)》  
世界のどこかで、今なお、人間性が無視され、争いが繰り返され、尊いいのちが軽視される中で、私たちは「平和の子」として力強く生き、いのちの尊さを証していく使命に直面しています。  
このような時代の混乱に目をそむけることなく、

聖母平和祈願祭 ー佐世保

今年も8月15日(水)、アルカスSASEBOにおいて、佐世保地区で恒例となっている「聖母平和祈願祭」が行われた。当日は猛暑の中1000人を超す信徒が会場を埋め尽くし、終戦記念日であり聖母の被昇天を祝うこの日に、聖母を通して世界平和を願う熱い祈りがささげられた。

はじめに、佐世保地区の各教会の有志でつくら



立正佼成会  
慰霊のため来崎

3日間の予定で来崎した立正佼成会訪問団が8月4日、カトリックセンターを訪れ、長崎の歴史や原爆、信仰について講話を聴き学んだ。



ペトロ 平田三郎司教 帰天

前福岡教区長ペトロ平田三郎司教は、8月5日(日)6時40分、入院先の新田原聖母病院にて肺炎のため帰天した。享年94歳。通夜はカテドラル大名町カトリック教会で6日19時、葬儀ミサは7日11時から同カテドラルで行われた。平田司教は説教のたびに「十字架の



江袋教会復旧委員会発足

この2月12日に焼失した江袋教会復旧のため、教区の中に8月20日付けで「江袋教会復旧委員会」が設置された。第1回の集まりは同日午後2時から大司教館で、委員・関係者ら約25人が集まった。



2億円の江袋教会復旧費用が見込まれる中、多くの方々の協力支援が寄せられている。現金や銀行・郵便振替など、寄付者は8月16日までに340件に達している。協力呼び掛けから半年がたとうとしている現在、寄付金は3千万円を超えた。

江袋教会復元基金口座

▽銀行振込  
十八銀行 浦上支店  
普通160310  
加入者名 宗教法人カトリック長崎大司教区「江袋教会復元基金」  
代表 高見 三明

▽郵便払込 口座番号  
0172008197471  
加入者名 宗教法人カトリック長崎大司教区「江袋教会復元基金」

大阪大司教区  
復興支援最終報告

1995年1月17日の「阪神・淡路大震災」から12年。大阪大司教区は、大震災からの復興を「蘇生ではなく新生」と位置づけて取り組んできた。「新生」のための「救援金」全小教区からの拠出金「全国のカトリック信者・教会・諸団体の支援金」に関する最終報告が、教区報「大阪カトリック時報」8月号に掲載された。各方面からの協力、長崎大司教区にも感謝の意が寄せられた。

教区人事異動・任命

【8月20日着任】  
熊川 幸徳師 福岡サン・スルピス大神学院養成者(カナダ)  
2006年6月、霊性神学の修士号をローマ・グレゴリアン大学で取得。その後、モントリオールとイタリアで司教養成者のコースに参加、スルピス会に入会する。

【8月26日着任】  
福島 光明師 天神教会主任(大野教会主任)  
工藤 秀晃師 大野教会主任(天神教会主任)

長崎新聞

長崎新聞を家庭で購読している人は多いと思う。宣伝をしているわけではないが、この新聞社から7月7日に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」特集が出ていた。かなりボリュームのある紙面で、保存することも意識して印刷されていたようである。▼特集号でいちばん先に目を通したのは大司教と県知事との対談のページである。おそらく本特集の目玉となるページであろう。ぱっと見て、「あ、これはまたすいなあ」と思ったのは、大司教の名前の表記が一般的な「高見」になっていたことだった。大司教の正式な名前の表記は、「高見」である。新聞記事には分かりやすい漢字を使うのが原則だと思いが、人名は時には原則通りにはいかないこともある。▼記事のもとになった資料に不備があれば、取材に協力した側のどこかに原因がある。公になる文書を出すすべての部署は必ずチェックして、「高見」が「高見」にならないよう十分注意すべきである。小教区で教会新聞を出している小教区もたくさんあるだろうから、この機会に大司教の名前を正確に表記するよう心掛けてほしい。▼今回の指摘で表記の問題を初めて意識したという小教区の広報担当者もいるかもしれない。主任司祭も気にしなかったかもしれない。小さなことかもしれないが、一つのこだわりで教会新聞の読み方がぐっと引き締まる。



邦人司教区設立80周年記念行事

巡礼「パリ外国宣教会宣教師たちの故郷を訪ねて」①

長野 宏樹 (西町教会)

長崎教区が邦人司教区になったの80年目の節目にあたり、高見三司大司教を団長に前半7月17日〜27日と後半7月27日〜8月6日の日程でパリ外国宣教会宣教師の故郷24カ所を訪ねた。今回の訪問には同会のシエガレ日本管区長も同行。祖国の地を訪ねることで、当時の宣教師たちの熱い思いに少しでも触れ、そこから現代の宣教のあり方や熱意を得ることができると考えたからである。

宣教師たちの出身地

まず彼らの出身地は、フランス全土におよび、しかも農村地帯出身者がほとんどであることは驚きであった。そのような地に生まれ育った人たちが、極東の地の長崎まで宣教に出てこられた熱意には全く頭の下がる思いがする。

宣教師たちの長崎での働きは、単に宣教するだけでなく信徒の発見、教会建設、司祭養成、教育施設の建設など、物心両面にはじめとする出身教会の人々の寛大な支援で実現できたものである。その額は現在世界遺産候補になっている教会をみればいかに莫大なものであったかが想像される。



心温まる交流

訪問先では、ミサまたは祈りの交わりを行い、その後交流会をもった。(写真・ティンエ師出身)



教会の皆さんとこちからは宣教師達の長崎での働きの紹介文書と絵葉書などをプレゼントした。交流会は近くの役場で、市・町・村長主催で開催され教会と行政が共同で行うものであった。双方のあいさつ、祈り、歌、記念撮影などが行われた。宣教師の写真が飾られ、地元からは60人、多いところでは180人の村人全員参加のところもあった。

宣教師の洗礼証明のコピーを用意してくれたところもあり、コンパス司教出身の聖堂では、現地司教と高見大司教による記念銘板の除幕式も用意されていた(写真・長崎)



巡礼団の来仏記念銘板除幕式。現地の人達の対応はすばらしく、我々の訪問が現代の彼らに少なからず刺激を与えたようであった。現地での新聞やテレビ

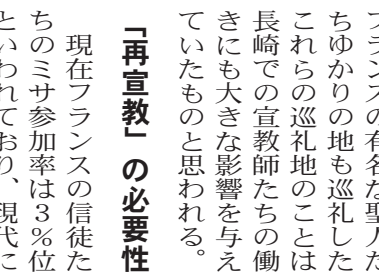
ビ・ラジオの取材も受けた。

宣教師を育てた原点

生家を訪ねることができ、そこは親戚が住んでいるところ、他の人の手に渡っているところというところもあった。ボンヌ司教の生家は民宿になっており、司教の略歴が掲示されていた。(写真・ボンヌ司教生家)

巡礼とあわせて、パリ

祭であったが、パリ外国宣教会入会の思いを何度も司教にお願いして許しを得た。それでも、司教が心変わりするのを懸念したプチジャン神父は、こっそり司教館の窓からパリへ出発したというところであった。そのことが、大浦天主堂での信徒発見につながった。



「再宣教」の必要性

現在フランスの信徒たちのミサ参加率は3%位といわれており、現代に合った信仰の伝達が急務と考えられる。「イエズスの聖心の信心」で有名なパレルモニア大聖堂の周りには若い人たちが全国から集って祈りの集会をしていた。これはテゼ、聖霊刷新運動、いろいろな共同体などであるという。邦人教区設立80周年が単なる記念行事で終わら

番組の紹介

●8日間の霊操(追加) 9月28日(金)〜10月7日(日) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

●9月28日(金) 22時5分NHK教育で放送される「美の壺」で大浦天主堂はじめ長崎の教会が紹介されます。

長崎教区の歴代教区長をたどる

第4回

ヤヌワリオ 早坂久之助司教



司教略歴 1883年9月14日仙台市に生まれる。ジャック神父が元寺小路に経営

する私立小学校に7歳で入学。東京神学校生として杉浦重剛創立の日本中学(もとの東京英語学校)に入学。4年修了後仙台旧制二校に入学。1905年同校文科卒業。日本最初のプロパガンダ奨学生となりローマ・ウルバノ大学に留学生として派遣される。

22年、駐ローマ教皇使節ジャルディニ大司教秘書。23年9月1日関東大震災後仙台に帰り、大河原、元寺小路の司牧歴任。27年7月16日長崎司教に被選(日本最初の邦人司教)。10月30日聖ペトロ大聖堂で教皇ピオ11世から長崎司教として祝聖される。

28年3月帰国。4月25日長崎教区長として大浦天主堂にて着座。11月1日付で教区機関紙「カトリック教報」創刊。33年10月、脳出血で倒れる。34年6月長崎に邦人女子修道会「長崎純心聖母会」を創立。37年2月長崎教区長辞任、仙台にて療養。59年8月仙台スベルマン病院に入院。肺がん。10月26日11時21分帰天(76歳)。10月31日長崎教区葬。赤城聖職者墓地に埋葬。

殉教者から信仰の原点を学ぶ④

殉教地の風になれて 山田教会 増山博子



生月の殉教者、聖トマス西と15殉教者が列聖された記念の日、私は子供3人を連れてその尊いガスパルさまの墓参りに出かけた。昭和62年のこと記憶している。当時の私は悲しい心で、信仰について深く考え、真理を求めていた。信仰しても嘆きがあった。祈りさえ唱えたらすべてが赦されるのだろうか。納得できないまま、ただ子供のためにミサに行く。その頃だった。十字架の上

心は空白であった。困窮を感じていた。そんな思いの中、墓前に立ち祈りをささげ、海を眺めているうちに、私の苦悩はいかに小さなことかと思えた。「ここに眠る殉教者たちの血潮に比べたら何とてかはないことか」と。自分の信念を貫き、教えるために命をささげ、苦難ではなく喜びとして迫害にも耐えられたその心。果たして自分ができるだろうか？

その頃だった。十字架の上でイエズスさまのみことばも知らず、信者でない友人から教えられハッとして、私の信仰は未熟であることを悟ったあの瞬間を思い出すたびに、信仰を生きたことかと思えた。同時に、私の信者としての原点はここから始まっているように思う。黒瀬の辻に訪れることにその事を回想し、いろいろな出来事もあったが、殉教地の風になれて信仰の扉を広げ高めていくことができるばあと思ふ。

匿名様(佐世保) 右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。 長崎大司教区

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式 (有) 栄光式典社 代表取締役 西村 勇二 長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011 24時間営業 FAX(095)843-9896

教会バンコ・祭壇・朗読台・家庭祭壇 浜口木工所 ヨハネ 浜口知博 〒857-0032 佐世保市宮田町7-7 ☎(0956) 23-1867

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網 エテルナ・ワコー(株) 代表取締役 ミカエル 溝口 美義 〒858-0926 佐世保市大湯町586 TEL(0956)47-4380



## 広島平和巡礼



ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ「One Step Forward」このテーマを掲げた広島教区の平和行事プログラムに参加するため、今年も長崎大司教区宣教委員会主催「青少年のための広島平和巡礼」が行われた。8月5～6日、橋本・中村・倫・両司祭をはじめ、中学生から戦争体験者まで

## 原爆殉難者慰霊祭



原爆忌前日の8日夜、長崎県宗教者懇話会主催の第35回原爆殉難者慰霊祭が長崎原爆落下中心地公園で行われ、各宗派の関係者1200余人が参列した。

## 純心学園慰霊祭



8月9日午前8時30分、純心中学校・女子高等学校(全校生徒1,085人)では、62年前に被爆した生徒・教師合わせて214人を追悼する慰霊ミサと墓前祭が行われた。

## 米国で「千羽鶴」合唱

8月9日、長崎市が主催する原爆犠牲者慰霊平和祈念式典での純心学園生徒の合唱に合わせるかのように、同日アメリカセントポール市で、初めての祈念式典が催され、純心学園の代表が参列、「千羽鶴」を合唱した。

総勢46人の巡礼団。昨年是大阪や横浜から大型バスでやってきたエネルギーの塊・若者中心の巡礼団を高見大司教とともに驚きをもって見た。今年は長崎巡礼団も半数は若者。その日のハッピを着て銅鑼(どら)を打ち鳴らし、平和を願いながら大声で歌い、原爆供養塔から世界平和記念聖堂へと平和行進した。その後、日本聖公会の皆さんとともに平和祈願ミサがささげられ、ゴミサの中で

## 召命フェスティバル in 上五島

8月7日(火)、新上五島町奈良尾総合体育館において、教区召命委員会(召命委員長 葛嶋秀信師、実行委員長 岡



は福江、佐世保に次ぎ、3回目の開催となった。「収穫は多いが働き手が少ない」をテーマに、教区内から約300人の子供たちが集い、司祭、修道者、引率者などを合わせると総勢400人を超える集いとなった。遠くからは生月の山田教会や島原教会からの参加があった。

午前中は浜崎靖彦師(地区長) 司式による召命祈願ミサが行われ、その前に「私のお墓の前で泣かないでくださいー」とテノール歌手秋川雅史が「千の風になつて」を歌い参列者に感動を与えた。

## 聖母被昇天祭前夜祭

8月14日午後7時からカトリック紐差教会では第9回の根獅子・紐差小



を前に「私のお墓の前で泣かないでくださいー」とテノール歌手秋川雅史が「千の風になつて」を歌い参列者に感動を与えた。

殉神父、山浦義春神父式のもと紐差出身の橋本列者で盛会だった。ミサ

## 小中学生黙想会の初日(平戸) 掛屋剛志君コンサート



平戸ザビエル記念教会(中島健二主任司祭)の教会学校では7月21、22の両日黙想会を行った。参加者は小中学生65人。今回は「世界がも

## 解宗連総会・研修

7月20日、「解宗連」(部落解放にとりくむ長崎県宗教教団連帯会議)の07年度総会および研修会がカトリックセンターで行われ、宗教・宗派を超えて県内各地から代表者が集まった。カトリック教会からはエ

## 教区評議会 評議員決まる

07年度・08年度

の冒頭に殉教者の(おろくにんさま)祝別と殉教祭の趣旨説明があったが、参列者は殉教者の偉大さをそれぞれが受け止めて、信仰生活の糧として新たな気持ちで殉教祭を終えることができた。

## 長崎地区子供スポーツ大会



8月17日、シーハットおおむらにて長崎地区子供スポーツ大会が開催された。これまではドッジボールを行ってきたが、子供の減少でチーム編成が難しく、男女混合で低

## ハウスオブジョイ(歓びの家) 皆さんの支援で10周年迎える



10年前長崎を旅立ち、フィリピンはミンダナオ島ダバオにハウスオブジョイ(歓びの家)を創設しました。10年を振り返れば、持参したお金が無くなった時、当時16人の子供と近くの教会へ行き明日のお米をと祈ったこと、卒業生が結核で亡くなる前に一緒に泣いたこと、栄養失調で倒れた子供が満腹になり笑顔になるその瞬間の喜びなど、今思えば神に触れる実感のよ



ナオ島にはこれからは必要とされず、子供たち

会長 高見三明大司教  
副会長 橋本 勲(本部)  
事務局 長中村 満(同)  
議長 大山喜左門(中)  
副議長 松尾 勝(中)  
同 松崎 薫(佐世保)  
同 水口照美(連合婦人)  
書記 西田賢治(北)  
同 畑原 廣(北)  
会計 田川孝弘(南)  
(委員) 小島清徳、川上武夫、下野 保、川上力、Sr.牧山ヨウ子、森内千恵子  
(会計監査) 柴田芳男、Sr.半田チエ子  
(事務局) 長野宏樹、辻喜美子、松本 修





平和をつくる子ども交流プロジェクト  
平和への道は！

07イスラエル・パレスチナ・日本・平和をつくる子ども交流プロジェクトが長崎市内を会場に8月6日から11日にかけて実施され、両国から5人ずつ、日本から4人、計14人の高校生とそのスタッフに参加。6日に長崎入りし、市長表敬、爆心地での献花(写真)、センターでの歓迎会に臨んだ。



翌日は原爆と平和をテーマに原爆資料館を見学し、被爆の語り部に耳を傾け、被爆遺構を巡り、その後、過去の歴史を見つめてと題した対話の時間を十分に取って、相互理解を深めた。8日は交流と友情の日とし、伊王島では海水浴、サイクリング、温泉などを体験し親しく交流。9日、午後は両国の痛みを聴くと題したミーティングに当

代表者出席  
長崎市は8月9日、原爆投下から62年目の原爆忌を迎えた。長崎市が主催した「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」には被爆死者遺族をはじめ、安倍晋三首相も就任後初めて出席した。

には、「被爆国として日本国憲法の平和と不戦の理念に基づき、核兵器廃絶に向けて強いリーダーシップを」と宣言した。式典にはイスラエル・パレスチナ高校生の代表も出席し、献花した(写真)。

長崎ではこの1年間に死亡が確認された被爆者は3,069人、8月9日現在、奉安者総数は14万3,124人になった。式典では純心学園の生徒が松本佳代子先生の指揮で、平和の誓いを新たに「千羽鶴」を合唱した。

「2007世界の昆虫展 in 瀬戸山」―生態写真家・栗林慧氏をはじめ鳥山邦夫神父、プロ写真家・浜崎さわこ氏、自然環境保護などにかかわる高橋裕二氏らが協働し、8月12〜19日まで田平教会信徒会館で開かれ、期間中4,117人が観覧した。

昆虫展会場には鳥山神父(円内)が趣味の最大級といわれる「オキバウスバカミキリ(17・5センチ)」などが展示され「昆虫に魅せられ2年間の収集に当たられた神父さまの努力に感動しました」といった感想も寄せられていた。

主の平安  
株式会社 五島式典社(齋場) 五島中央会館  
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭  
五島市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551  
24時間営業 FAX (0959) 74-5552

堂崎キリシタン資料研究会発足

浦頭小教区の信仰の古里だった堂崎天主堂が来年度100周年を迎えるため、地元郷土史家、キリシタン史研究者がこのほど「堂崎キリシタン資料研究会」を立ち上げた。

研究会は資料館展示品の調査研究、五島キリシタン史の研究、記念誌の発行、堂崎天主堂100周年事業など計画し、事務局を浦頭小教区経済委員会(堂崎資料館保存委員会)に置く。研究会会長には泉松市氏を選任した。



佐世保市在住の写真家中倉壯志朗さん(47)の教会写真展が平戸・佐世保市で開かれ観覧者の目を楽しませている。7月は「黒島天主堂」8月は「平戸宝亀教会」をテーマとして平戸市役所、佐世保市Y.B. Roadで開催した。

長崎原爆平和祈念式典に出席した日ベラルーシ臨時代理大使バチャノフスキー・レオニド氏と一等書記官チュレチェフ・セルゲイ氏は、8月8日、長崎大学医学部・山下俊一教授に案内され大司教館を

授に案内され大司教館を表敬訪問した。代理大使は、ノベル文学賞候補にもなり、ソ連の良心と尊敬されている、ベラルーシの詩人・パ

ラドウィリン氏の日本語訳本が日本で初めて出版された大司教に贈呈した。日本語訳の詩は、「風に祈りを」バラドウィリン詩集(越野 剛訳、春風社)―貫してカトリック精神がその根底をなしている」と山下教授。

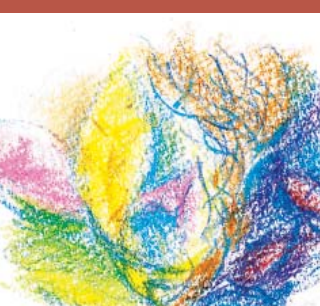
原発事故が発生したチェルノブイリと長崎大とのかわりには、医学部を中心に医療支援活動が今日も続けられ今年で17年目。

2000年には浦上教会の主任司祭(当時三村誠一師)と信徒代表が被爆マリア像を持参し、ベラルーシ共和国ミンスク市にある赤い教会を訪

24時間営業・年中無休  
受付時間 7:00~22:00  
水浦運送  
シモン 水浦 幹雄  
長崎市上野町12-3  
TEL(095)9847-7151  
844-1420

みことばにふれて

小島エイ子 修道女  
(聖ドミニコ宣教修道女会)



「天の国は、海に投げ入れられていろいろのものを集める網に似ている。良いものは選んで器に集め、悪いものは外に捨てられる。世の終わりにこれと同じようになる。」

2005年の夏休み、教会学校の小学生を連れて、(数人の保護者同伴)水の浦にキャンプに行きました。その折、水の浦教会の主任神父さまと、信徒会長さま方のお

と、信徒会長さま方のお計らいで、子供たちに定置網の体験をさせていただきました。子供たちは

ピチピチと泳ぎまわる音と、はじめて体験する子供たちの歓声とで、それはそれはにぎやかなものでした。子供たちは

でし。船の上に取り上げられ、両方から網を引き上げて行くうちに網の中に迷い込んだ「魚」たちが

馳走となりました。せつなく網にかかった魚、それも見た目には美しい、とっても美味しそうな魚

でも、私たちに食べられないものと、栄養満点の魚があるようです。ペトロのような船長さんたちが

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「長崎の鐘」『この子を残して』などを通じて、世界中に平和を訴え続けた永井隆博士の子供にも

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあずか

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

「世の初めからあなた方のために用意された国を受けなさい」と、一人ひとりをより分けられるとき、天の晩さん会にあず

(医) 外尾内科医院  
院長 ベトロ 外尾 明利  
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4  
TEL 0956-33-5557